



## 宇宙から恐怖がやってくる！

フィリップ・ブレイト 著

日本放送出版協会，414 頁，2,100 円（税込み）

読み物  
お薦め度  
5  
☆☆☆☆☆

本書は出版直後に入手して、あ、変わった切り口だなと思っていた。が、ざらっと目次を眺めただけで、もちろんすぐ読むヒマなどない。未読本の待ち行列は、つねに数十冊は並んでいるから、たいてい読むのは、早くて数カ月、下手をすると半年先になる（実は、ある事情で、この4月から200冊ぐらいになっている）。本書も本来なら数カ月先に読まれるところが、今回、書評を頼まれて、思わず早く読むことができた。

本書は書名のとおり（原題は“Death From The Skies!”）、天体現象が原因となって地球や人類が滅亡するシナリオを九つ挙げた本だ。書名は、原題にせよ邦題にせよ、いささか怪しげだが、中身はしごくまっとうな科学解説書である。ちなみに、数カ月前に書評した『重力の再発見』も、トンデモ本と思われたらしく二人に断られて、ぼくに回ってきたが、やはり非常にまっとうな本だった。

具体的には、①小天体の衝突、②巨大太陽フレア、③近傍での超新星爆発、④地球に向けたガンマ線バースト、⑤ブラックホールの接近、⑥エイリアンの訪問、⑦太陽の死、⑧銀河系の問題、⑨宇宙の終焉の順に、宇宙から迫り来る危機の性質や結末や回避法などが議論してある。しかも、最新のデータに基づき科学的な見地からきちんと定量的に評価してあるので、初心者にはもちろん専門家にも読み応えがある。だからといって、バキバキにオカタイ本ではなく、恐怖がやってきたときに起こる出来事が科学的洞察のもとでヴィ

ヴィッドに描かれているので、そこを読むだけで、“宇宙から到来する恐怖”という問題の本質がわかるだろう。

ここまでで十分に☆三つだが、さらに文章自体が、著者の軽妙な語り口は読んでいてイヤミがないし、傍注も含めて、あちこちのウィットに富んだ鋭い突っ込みも読んでいてニヤッとする。これは☆を一つ増やした。

当然のこと、ぼくはだいたい知っている内容だったが、それでもガンマ線バーストを発見した Vela 衛星の意味など、初めて知ったことも多々あった。書評のついでに勉強させてもらったし、個人的にも面白かった。

さて、彗星の衝突など単発で地球破滅を議論したものはいままでにも多数あるし、ぼくもいろいろ取り上げたことはあるが、ぼくの知る限り、九つものシナリオをここまで上手にまとめ上げた解説書は空前だと思う。それが、変わった切り口だなと思った理由だ。これが五つ目の☆である。

で、空前ではあったが、絶後ではなくて、やはり4月頭だったか、電話である本の監修を頼まれた。向こうが内容を説明するのを腰折って、ああ、じゃあ、『宇宙から恐怖がやってくる！』みたいな本ですか？と言ったら、相手方は一瞬絶句していた（笑）。もっとも、内容を希薄にした類書では面白くないので、いろいろ新しいネタを紹介したが、少しは違ったものになればいいな。

福江 純（天文楽者，大阪教育大学）